

手術センター(手術部)

1. スタッフ構成

- 大谷 広美(消化器病センター長、手術センター長、手術部長、改善推進室長補佐、クオリティマネジメント室長)
- 渡部 早人(看護長)
- 看護師:58名
- 臨床工学技士:1名
- 看護補助者:2名

2. 認定資格取得

資格名	資格取得者
日本看護協会手術看護認定看護師	渡部早人、今井幹也

3. 運営方針

- (1) 患者さんに安全で、安心できる手術を提供します。
- (2) 地域の基幹病院として、高度で先進的な手術に対応する機能を備えます。
- (3) 高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを有しており、常に緊急手術に即応できる体制を整えます。
- (4) 人、物、設備を効率的に活用し、安全で円滑な手術室運営を行います。

4. 実績

4階の中央手術部内に手術室が15室(うちバイオクリーンルーム対応手術室2室、アンギオ対応ハイブリッド手術室1室、ロボット支援手術用手術室2室)、5階の産科病棟に緊急帝王切開用の手術室が1室あります。

いつでも緊急手術に即応できるよう、手術部看護師および麻酔科医師が24時間常駐しています。

2023年はCOVID-19関連の手術枠制限は行われず、総手術件数は7,722件と増加し平常を取り戻しつつあります。ただし、働き方改革の影響や、看護師不足による入院病床数の減少により、自主的に手術数を制限せざるを得ない状況が続いています。緊急手術数については、1,308件(16.9%)で、2021年の1,212件(17.2%)、2022年の1,366件(19.0%)と比べてこちらも平常を取り戻しつつありますが、依然として多くの緊急手術が実施されており、地域の基幹病院としての責務を果たしていることが示されています。四国最多の手術件数を安全かつ効率的に行うために、電子化された業務フローやPFI事業に伴う民間委託業者との業務提携を活用しています。また、医療コンサルタントによる分析も取り入れなが

ら、さまざまな運用改善に取り組んでいます。

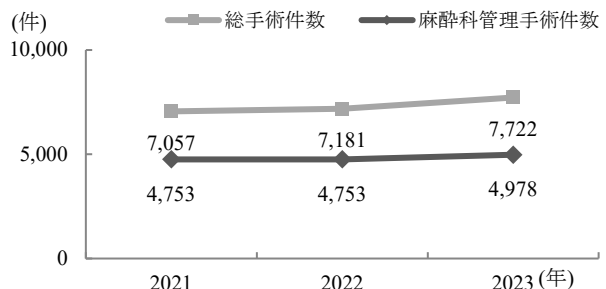
当院の特徴として、高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを有しているため、緊急手術が多く、超高齢者や重篤な合併症があり極めて状態の悪い患者さんなど、リスクの高い(生命に関わる危険性が高い)手術が多くなっていることが挙げられます。一刻を争う患者さんがドクターヘリで搬送され、直ちに緊急手術となることもあります。

また、当院ではハイブリッド手術室を使用したTAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)や大血管のステントグラフト内挿術、ロボット支援手術、ナビゲーションシステムを用いた精密手術、高難度肝胆膵腹腔鏡手術、内視鏡を用いた低侵襲手術等、最先端の手術を積極的に行っています。2020年3月には、2台目の手術支援ロボットが導入され、増加するロボット支援手術に対応すべく、手術室も1室増設されました。

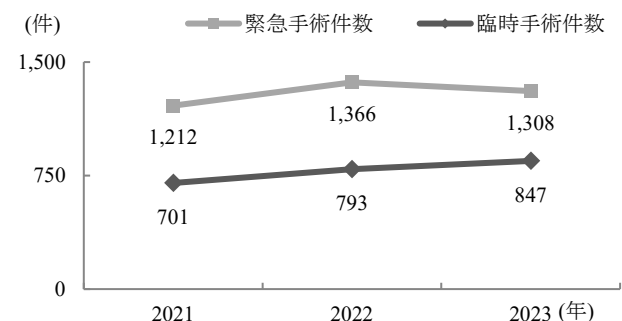
またCOVID-19に関連し、排煙装置等のサージカルスモーク対策や運用マニュアルの整備等、手術室内での感染防止対策を強化すると同時に、当院に求められる地域基幹病院としての責務を果たすため、感染状況に応じて、手術枠制限、解除を能動的に行い、緊急手術、高難度ハイリスク手術遂行機能を維持しています。手術室の柔軟で効率的な運用を進めており、2023年の臨時手術件数は847件となり、2021年の701件、2022年の793件、より一貫して増加してきています。

患者さんに高度で安全な手術を提供できるよう、医師・看護師・臨床工学技士等さまざまな職種のスタッフが協力して、手術室運用業務の適正化に取り組んでいます。

■ 総手術件数、麻酔科管理手術件数の推移



■ 緊急手術件数、臨時手術件数の推移



■ 総手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
循環器内科	7	10	11	14	12	15	13	13	8	11	13	16	143
小児外科	8	12	11	9	12	13	11	11	10	10	15	10	132
消化器外科	133	118	136	119	124	117	123	138	125	121	120	135	1,509
乳腺・内分泌外科	25	22	26	29	27	20	23	24	15	22	29	21	283
呼吸器外科	15	16	15	8	12	15	12	6	18	7	12	14	150
整形外科	103	106	110	102	110	102	122	105	110	107	99	111	1,287
形成外科	37	44	50	31	35	46	36	56	26	46	48	39	494
脳神経外科	32	28	32	29	28	32	25	25	27	28	23	23	332
皮膚科	5	7	2	9	12	3	2	4	4	3	4	4	59
泌尿器科	72	68	88	70	77	89	71	90	72	82	73	76	928
婦人科	31	42	41	43	41	41	38	42	32	46	37	32	466
産科	23	22	20	14	34	25	24	30	27	13	26	25	283
眼科	63	68	77	56	79	90	70	75	74	67	80	53	852
耳鼻咽喉科	32	25	30	30	30	29	33	41	28	35	32	28	373
麻酔科	2	0	3	0	0	3	3	0	2	3	0	0	16
歯科	1	2	1	1	0	2	2	4	3	1	0	0	17
心臓血管外科	35	29	34	30	29	33	36	31	29	31	40	37	394
合計	625	619	688	595	662	675	644	695	611	633	651	624	7,722

■ 麻酔科管理手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
循環器内科	7	10	11	14	12	15	13	13	8	11	13	16	143
小児外科	8	12	11	9	12	13	11	11	10	10	15	10	132
消化器外科	106	101	112	95	104	100	100	112	107	98	106	110	1,251
乳腺・内分泌外科	21	22	22	24	23	16	19	21	14	18	26	17	243
呼吸器外科	15	16	15	8	12	15	12	6	18	7	12	14	150
整形外科	67	74	79	67	78	69	70	68	71	68	64	68	843
形成外科	18	14	17	9	10	12	10	19	14	13	16	18	170
脳神経外科	27	23	26	24	23	28	18	20	19	24	18	23	273
皮膚科	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	5
泌尿器科	31	32	36	34	28	38	28	37	31	30	29	32	386
婦人科	30	31	34	33	35	32	29	34	24	37	30	29	378
産科	23	22	20	14	34	24	23	27	24	12	26	24	273
眼科	2	1	3	1	3	1	2	1	2	0	2	1	19
耳鼻咽喉科	28	22	29	25	27	27	27	34	26	29	30	26	330
麻酔科	2	0	3	0	0	3	3	0	2	0	0	0	13
歯科	1	2	1	1	0	2	2	4	3	1	0	0	17
心臓血管外科	29	26	33	27	24	31	27	28	25	29	34	35	348
合計	416	409	453	386	426	428	394	435	399	388	421	423	4,978

■ 非麻酔科管理手術件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
消化器外科	27	17	24	24	20	17	23	26	18	23	14	25	258
乳腺・内分泌外科	4	0	4	5	4	4	4	3	1	4	3	4	40
整形外科	36	32	31	35	32	33	52	37	39	39	35	43	444
形成外科	19	30	33	22	25	34	26	37	12	33	32	21	324
脳神経外科	5	5	6	5	5	4	7	5	8	4	5	0	59

皮膚科	5	6	2	9	11	1	2	4	4	2	4	4	54
泌尿器科	41	36	52	36	49	51	43	53	41	52	44	44	542
婦人科	1	11	7	10	6	9	9	8	8	9	7	3	88
産科	0	0	0	0	0	1	1	3	3	1	0	1	10
眼科	61	67	74	55	76	89	68	74	72	67	78	52	833
耳鼻咽喉科	4	3	1	5	3	2	6	7	2	6	2	2	43
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
心臓血管外科	6	3	1	3	5	2	9	3	4	2	6	2	46
合計	209	210	235	209	236	247	250	260	212	245	230	201	2,744

5. 2024 年度目標

- (1) 救急患者の手術に対応した柔軟な業務体制を構築し、手術待機期間のさらなる短縮を目指します。
- (2) 不足している手術枠をいかに効率的に運用していくかにつき、さらなる対策を進めていきます。
- (3) 術野映像の取り扱いにつき、セキュリティ向上に努めます。
- (4) クリニカルインディケーター等の臨床評価指標を基にして、手術業務の改善・効率化を図ります。
- (5) WHO 手術安全チェックリストを用いて手術に関わる全職種で情報の共有を行い、より安全な手術を目指します。
- (6) 手術室内での感染防止対策を徹底し、COVID-19 を含む感染症流行期においても、安全に手術できる体制を強化していきます。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 伊豫田渚、松永佳余子. 手術室経験 6 年未満スタッフのコミュニケーションエラー関連要因の検討. 第 42 回愛媛看護研究学会. Web 開催 (2023.2.20-3.2)
2. 久保真奈美、仙波末樹、渡部早人、一ノ宮喜美江、松永佳余子. 手術室教育における思考発語と臨床判断の勉強会を取り入れた効果. 第 61 回全国自治体病院学会 in 北海道. 札幌 (2023.8.31-9.1)
3. 橋本望、二宮まどか、近藤諒太、松本聖. 手術室における超過勤務時間の削減. 第 61 回全国自治体病院学会 in 北海道. 札幌 (2023.8.31-9.1)